

9月CP予測「プロパン340ドル・ブタン350ドル」も 原油乱高下に振り回されるLPガス国際市場

原油市況の大幅な下げに伴いLPガス国際市況も急落している。8月上旬の下落から9月CP予測は「プロパンが340ドル・ブタンが350ドル」という安値も見えてきた。ただ、原油は8月第2週末に反騰しており、CP予測も上方修正される可能性もある。乱高下する原油市況に振り回されることになりそうだ。

1. 中東CP先物市場

7月最終週=8月第1週の中東CP先物市況は、プロパンが350ドル台半ば、ブタンも同じく350ドル台半ばで動いた。ペルシャ湾での政治的緊張が高まっていることから、中東積み敬遠する動きが目立つ。原油下げと相まってこの動きが中東FOB市況の危機による上げを抑制している。中東のLPガス需給は7月の緩和状態はなくなった。インドや中国の買いが増えてきた。特にインドは高在庫と滞船がすっかり解消され、中東産ガス国での手当てを増やそうとしている。中国勢も米国玉が輸入できないことから中東シフトを強めている。本来ならこれで市況はもっと上向くはずだが、東アジア勢とトレーダー各社はリスク回避に動いており、中東市況の上値は抑えられている。この結果、AG~JPNのスポットフレートも67ドル前後と軟化、余剰船舶も目立ってきた。8月第2週半ばのCP先物相場はプロパン340ドル台前半、ブタン350ドル台前半。「プロパン安・ブタン高」への転換は、インドのP・B比率22:22などの買いが入ることと中国勢のブタン買いが増えたため。カタールのスポット売りはあるが、サウジは在庫低下で「スポット売りはない」としている。

2. 極東CFR市場

日韓の在庫は猛暑が影響して高い。しかも、極東市場への米国カーゴの流入は潤沢。9月着カーゴも多く、市況は一段安。8月第1週のプロパンは前週比5~17ドル下げの379~402ドル、ブタンは同3~5ドル下げの379~394ドル。第2週半ばは更に下げてプロパン350ドル台半ば、ブタン360ドル台半ばとなっている。ただこの市況は日本CFRといったほうがよい。中国CFR(華南)はこれよりも30ドルほどの高値だ。中東産がベース市況となるためだ。米国産が輸入できず、イラン産も減少しているため、中国CFRは高値にならざるを得ない。極東には米国玉が溢れているともいわれるほどで、9月前半着のプロパンカーゴなど「9月CPプラス10ドル台後半」の売り唱えさえ出ている。「下期入りに備えて9月の在庫を高めておく」など「今は昔」。米国発カーゴは次々と極東入着する。

3. モントベルビュー(MB)市場

8月第1週は、プロパンが前週比3~20ドル上げの208~253ドル、ブタンが同4~35ドル上げの189~253ドルと乱高下した。P・Bとも253ドルとなったのは週末2日。前日の1日にWTIが前日比4.63ドルの大幅下げとなったが、2日には55.69ドルと反発したことを反映した。不需求期で在庫高だから市況反応のファクターが原油しかなく、原油市況を過剰に反映している。第2週にWTIが3日連続の下げとなったことでプロパン203ドルに下げたが、8日の反騰で210ドル台半ばに戻した。

8月2日現在の全米プロパン在庫は前週比23万トンの増の670.7万トン。前年比では125.5%となった。不需求期にどれだけ在庫を積み上げられるかで、11月1日からの需要期スタート価格が決まる。積み上げは当然ながら前年に比べると高水準在庫となっている。天然ガスもそうだが3月の異常高温で在庫は高い。だが、天然ガスは夏場の猛暑で発電用需要が大幅に増加している。

第1週のプロパン輸出は104.2千トン/日と2週間ぶりに10万トン/日を超えた。この大半が9月上旬に極東につく。したがって、上記のとおり極東CFRの米国プロパンカーゴは「CPプラス20ドル割れ」相場となっているわけだ。

4. 原油市況

7月31日に58.58ドルまで上げたNYMEXのWTI（期近終値）だが、翌1日に53.95ドルに急落。2日には反発するが、7日には51.09ドルまで下げた。ペルシャ湾危機とトランプ発言に逐一反応する。対中強硬路線と中国のこれへの反発の応酬で経済減速は進行しているため、ベースは原油下落へ動くのだがペルシャ湾情勢は緊迫。

サウジは9月の原油輸出を700万バレル/日まで減らすと非公式の情報が伝わった。価格維持を考えてのことだが、夏の数カ月、サウジは空調用の国内電力需要が多く、電力消費が急増する。このため、2015年夏 サウジは記録的量の原油を生焚きした。6~8月で90万バレル/日にもなった。2018年夏には41%減の50万バレル/日としたが、いずれにせよ9月には生焚き原油は大幅に減少する。それだけ減産できて輸出も減るとの読みだが、その分米国の原油輸出が増えることになる。

IEAは9日発表の「8月分石油市場報告」で「2019年1~5月の世界の石油消費の伸びは52万バレル/日にとどまった」と警告。2019年の伸びは前年比110万バレル/日と下方修正予測をしたが、現状はこれさえ大きく下回っているわけだ。石油需要が減少する下で価格維持を図ろうとすると、イラン制裁はますます強化され危機が演出される可能性が大。原油乱高下は続くことになる。